

## 最終報告書レポート

### タイトル： ベトナムにおける伝統・現代演劇の実態調査報告、および演劇交流の可能性

ベトナム滞在中は、演劇のジャンルを問わず片っ端から観劇して回った。劇場に行けば、さまざまな刺激を受けた。未知なるものとの出会いは期待と不安が伴った。伝統芸能でも現代劇でも、退屈な上演はあったが、多様な表現様式や洗練された舞台には刮目させられた。

表現の誕生には、それをとりまく地域や社会のあらゆる影響が刻まれている。社会から切り取られて誕生した表現は、次に置かれる「場」でどう生きるかが問われる。こうした表現が、観る側の問題意識と共感して、双方のコミュニケーションの「場」と化すならば、そこに新たな関係が生まれるだろう。

※ ※ ※

よく言われることだが、「政府は、国民を映し出す鏡」である。

良くも悪くも、政府は国の政治、経済、文化および諸外国との対外的な業務をすべて管理し、その体制の下で暮らす人々の文化的水準の全貌を映し出す。

周知のとおり、ベトナムは共産党の単独支配による単独政権である。21世紀においてさえ、社会主義の思想を貫いている。したがってベトナムでは、ベトナム人はもとより外国人でさえ、つねに行動と思想が制限されている。こうした意味で、ベトナムの政治を解明することは、本質的にはベトナムで生活する人々の質を明らかにすることに繋がる。逆に言うならば、政治的な仕組みや制度を理解するためには、そこで生活する人々にアンテナを張り、歴史や地理や環境も含めて、かれらの真の姿をじっくり観察しなければならない。

※ ※ ※

ハノイやホーチミンの街中を行き来する大量のオートバイの群れを眺めていると、ベトナム人の底知れぬエネルギーと行動力に驚嘆する。東南アジアの他の都市では見られない、強烈で異様な雰囲気がある。

ベトナムという国は、こうした国民の下からのエネルギーで数々の困難を乗り越えてきたのだと、つくづく思う。

日本に比べると、ベトナムの平均所得は格段に低いが、ベトナム人の表情はいたって明るい。

抗仏、抗日、抗米、抗中の長期にわたる戦争によって時間は止められたが、戦後のベトナムは再び世界の中心エリアへ向かって進んでいる。あと数年もすれば、屈強な経済国家になることはだれも疑わないだろう。

わたしは、今回のフェローシップ事業をきっかけに、もう一度「アジア演劇」というテーマを見直し、次なるステップに進めなければいけない時にきていると感じた。

演劇が息づく豊かな土壌がある限り、ベトナムの演劇状況と演劇教育の可能性は無限に広がっている。



## 1. ベトナム演劇界の規模と現況報告

ベトナムには、政府（ベトナム文化スポーツ観光省）管轄下にある舞台芸術関係の組織が 12 団体ある。いわゆる国の補助金で運営されている劇場・劇団・楽団・舞踊団等である。これらのうちの 10 団体が首都ハノイに集中し、併設された専用劇場を拠点に活動している。（表 1 参照）

さらにベトナムは行政区画で 58 の省と中央直轄特別市（ハノイ、ホーチミン、ハイフォン、ダナン、カンターの 5 都市）に分けられ、省レベル、市レベルの地方自治体所属の芸術団体も健在である。

また、軍隊や公安省に所属する伝統劇チェオや現代劇の劇団も存在している。活動は軍隊や警察への慰問団という役割が優先されるが、なかにはテレビ等に出演している国民的な俳優も抱えている。

一方、特筆すべきは公的機関に属さない民営劇団の存在である。

21 世紀に入ってから民営劇団はホーチミンで急速に誕生し、観客は入場料を払って観劇する習慣が定着している。これはホーチミンに限られた状況で、ハノイには正式に認可された民営劇団はない。

以上のような実状からわかるように、ベトナムの演劇は都市部に集中しており、ハノイの演劇界は国立劇団、ホーチミンは民営劇団が中心的な役割を担っているといえる。

正確さには欠くが、「ベトナムドラマ劇場」のグエン・テー・ビン（NGUYỄN THÊ VINH）館長によると、ベトナム全土には 50 施設ちかいかい演劇専用の劇場があり、150 団体程度の芸術団体が上演活動に携わっているという。

### ①オペラハウスに隣接する「ベトナムドラマ劇場」

「ベトナムドラマ劇場」はハノイ旧市街の中心地にあり、「ハノイ市営・大劇場」（通称ハノイオペラハウス）の真裏に位置している。このオペラハウスはパリのオペラ座を模倣して 1911 年に建てられている。外観は白と黄色に彩られ、100 年以上の時を経たいまでも荘厳な存在感を残している。広いエントランスの中央階段には深紅の絨毯が敷かれ、床や壁は豪華な大理石で埋め尽くされている。

客席数は 585 席と小ぶりだが、高貴な内装と巨大なシャンデリアは、観客の目を釘付けにする。

フランスらしい絢爛華麗な雰囲気は漂い、バルコニーからは 6 本の通りが放射線状に交差する八月革命広場が一望できる。かのホーチミン主席は、このバルコニーから市民に向かって、「独立と自由に勝るものなし」と演説をしたと言われる。

「ベトナムドラマ劇場」は、オペラハウスに付属して 1952 年に演劇専門の劇場として設立された。フランス、アメリカ、中国相手の長い戦争に巻き込まれながらも、ベトナム独自の現代劇の可能性を模索してきた由緒ある劇場である。現在は「ベトナム文化スポーツ観光省」（政府）の管轄下であり、客席 180 席の劇場を拠点に、総勢 100 名以上の従業員が働いている。わたしと同年代の館長グエン・テー・ビンは「ベトナム青年劇場」の副館長を経て、2012 年から指揮を執る。経済的な困難から低迷期が長く続いていたが、着任後に抜本的な改革に着手し、活力を取り戻している。



組織は総務、渉外、経理、芸術の4部門に分かれ、活動の要である芸術部門には俳優50名、演出家2名、座付き作家らが所属し、上演母体を強化する。

この4年間に20作品のレパートリーを創作し、ハノイのほか地方都市や海外の演劇祭参加など、上演活動は積極的である。館長室には国内外の演劇祭で獲得した幾多の金、銀メダルの賞状や表彰盾が飾られている。

副館長で座付演出家のアイン・トゥー (ANH TÚ) は、ベトナム伝統演劇の形式性を打ち破り、西洋演劇の受容ではない、独自のベトナム現代演劇を創りたいと語る。



ベトナムドラマ劇場



## ②さまざまな挑戦を試みる「ベトナム青年劇場」

「ベトナム青年劇場」はハノイの市街地を南北に走る大通りから少し入った一角にある。設立はベトナム戦争後の1978年。

設立当時は青年たちで構成されていたため、青年劇場と名付けられたという。

若い世代に芸術の鑑賞機会を提供し、その知識を深めることを目標として掲げ、国際児童青少年演劇協会ベトナムセンターの役割も担っている。

618席の中劇場を所有し、現代劇の2劇団、歌と踊りの歌舞団、そしてベトナムでは珍しい身体表現を重視したフィジカル劇団の合計4劇団がこの劇場に拠点を置いて活動している。総勢120名のアーティストたちを擁し、スタッフを含めると従業員数は200名を超える。

現代劇、児童劇、翻訳劇、ミュージカルまで幅広いレパートリーをもち、地方巡演、海外公演、青少年への教育普及活動など過密なスケジュールをこなしている。

この団体は、2014年に国際交流基金が実施したASEAN諸国向け文化協力事業で十数名が来日し、約4ヶ月間にわたり、日本の舞台制作現場で実施研修を積んでいる。

日本演劇への関心は極めて高く、過去には1997年と2007年に東京演劇アンサンブルの公演を受け入れている。

また、2010年には東京で開催された国際イプセン演劇祭に参加し、『人形の家』を上演している。2016年度は、「江戸糸あやつり人形結城座」との日越国際協働制作で、イプセンの『野鴨』を原作にした『野鴨中毒』を東京、ハノイ、シビウ演劇祭で上演している。

これまで館長はチュオン・ニュアン (Truong Nhuan) が務めてきたが、2017年6月からは俳優のファム・チー・チュン (Phạm Chí Trung) にバトンタッチされる。



ベトナム青年劇場



(表1) ハノイに本拠地を置く舞台芸術関係の主な団体

(No. 1~10 はベトナム文化スポーツ観光省所轄)

	ハノイの主な芸術団体	創立	住所・備考	ロゴマーク
1	Nhà Hát Kịch Việt Nam ベトナム演劇劇場 (国営)	1952	1 Tràng Tiền, Hoàn Kiếm, Hà Nội ※180 席の小劇場を保有	
	Nhà Hát Tuổi Trẻ ベトナム青年劇場 (国営)	1978	11 Ngô Thì Nhậm, Hai Bà Trưng, Hà Nội ※618 席の中劇場を保有、4 劇団を抱える	
3	Nhà hát Tuổi Trẻ Việt Nam ベトナムトゥオン劇団 (国営)	1959	Rạp Hồng Hà - 51 Đường Thành, Hà Nội ※395 席のホン・ハー劇場が拠点	
	Nhà Hát Cải Lương Việt Nam ベトナムカイ・ルオン劇団 (国営)	1951	164 Hong Mai, Quỳnh Lôi, Hai Ba Trưng, Hà Nội	
5	Nhà hát Múa rối Việt Nam ベトナム人形劇団 (国営)	1956	361 Trương Chinh   Thanh Xuan, Hà Nội.	
	VNSO Dàn Nhạc Chèo Hưởng ベトナム国立交響楽団 (国営)	1959	226 Cầu Giấy, Hà Nội ※ハノイオペラハウスが主な公演拠点	
7	Nhà Hát Chèo Việt Nam ベトナムチェオ劇団 (国営)	1951	(Nhà hát Kim Mã) tại số 71 Kim Mã, Hà Nội ※476 席のキン・マー劇場が拠点、50 席の小劇場あり	
	Liên Đoàn Xiếc Việt Nam ベトナムサーカス連合会 (国営)	1956	67 Trần Nhân Tông, Lê Đại Hành, Hai Bà Trưng, Hà Nội	
9	Nhà Hát Nhạc Vũ Kịch Việt Nam ベトナム国立オペラ舞踊団 (国営)	1959	11 lane Núi Trúc- District Ba Đình Hà Nội ※ハノイオペラハウスが主な公演拠点	VIETNAM NATIONAL OPERA & BALLET
	Nhà hát Ca Múa Nhạc Việt Nam ベトナム現代音楽舞踊団 (国営)	1986	8 Huỳnh Thúc Kháng, quận Ba Đình, Hà Nội	
11	Nhà Hát Chèo Quân Đội 軍隊チェオ劇団 (軍所属)	1954	45 Xuân Đình, phường Xuân Đình, Bắc Từ Liêm, Hà Nội, ※軍隊への慰問もあるが、一般公演も行われる	
	Nhà Hát Kịch Nói Quân Đội 軍隊ドラマ劇団 (軍所属)		6 Hồ Tùng Mậu, Mai Dịch, Cầu Giấy, Hà Nội ※第3回ベトナム実験演劇祭に参加	
13	Nhà Hát Kịch Hà Nội ハノイドラマ劇場 (市営)	1959	Cong Nhan theater No.42 Trang Tien, Hà Nội.	
	Nhà Hát Múa rối Thăng Long ベトナム水上人形劇団 (市営)	1969	57, Dinh Tien Hoang Str., Hà Nội. ※約 200 席の劇場で連日公演が行なわれている	
15	Nhà Hát Cải Lương Hà Nội ハノイカイ・ルオン劇団 (市営)		72, phố Hàng Bạc, quận Hoàn Kiếm, Hà Nội.	
	Nhà Hát Chèo Hà Nội ハノイチェオ劇団 (市営)	1954	15 Nguyễn Đình Chiểu, Q. Hai Bà Trưng Hà Nội.	
17	TRƯỜNG ĐẠI HỌC SÂN KHẤU - ĐIỆN ẢNH HÀ NỘI ハノイ映画演劇大学 (国立)	1980	Khu Văn hóa nghệ thuật, P. Mai Dịch, Q. Cầu Giấy, Hà Nội ※1959 年設立の映画学校と演劇学校を統合	

### ③ホーチミン市の現代演劇……………若者たちに人気の民営劇団フラット・サイゴン

かつて南ベトナムの首都として栄え、統一後もベトナムの重要な経済都市として存続するホーチミン市は、人口で首都ハノイを上回り、演劇界も活気を呈している。というのも、この都市には民営劇団が複数存在し、若者のあいだで賑わっている。(表2参照)

民営劇団の特徴は、そのほとんどが2000年以降に旗揚げした若い団体である。ハノイの劇場のように、政府からの支援がなため、入場料収入が唯一の財産源である。商業演劇としても意味合いが強い。

民営劇団の演目はコメディタッチのエンターテイメントが主流で、人気のある映画俳優などをキャスティングして、娯楽性を強調している。

なかでも、2009年に創立された人気の高い劇団フラット・サイゴンは、ホーチミン映画演劇大学の敷地内にある285席の劇場を拠点にしている。代表のチャン・ダイ(Trần Đại)によると、創設当時は観客が

入場料を払って劇場に足を運ぶ習慣はなかったという。そこで彼はホーチミンの若者たちの遊びや楽しみの動向を丹念に調べ、娯楽について学生らから聞き取り調査を繰り返し行なったという。そして映画館に若いカップルや青少年たちがあふれていることに着目し、よく知られた映画俳優たちを「生の舞台」に立たせることを思いつく。

そしてホーチミン映画演劇大学演劇科出身の俳優たちを集め、オリジナルの作品づくりに全力を費やす。俳優の知名度を利用し、期限付きの無料公演を単発的に行なったという。映画やテレビで活躍している俳優たちが演じる生の舞台は、ロコミで若者たちの間に広まり、次第に入場料を支払って観劇しようとする習慣が定着していった。なにはともあれ、舞台が楽しく、かつ面白くなければ、劇場に人は集まらない。

しかし、ベトナムは社会主義の国である。

中国と同様に上演台本の検閲があり、政治や社会を批判した内容はタブーである。言論統制やインターネット等の規制も厳しい。

したがって作品は、イデオロギーにとらわれない恋愛コメディやホラードラマ、ミュージカルなどが中心になっている。

劇団フラット・サイゴンは、俳優55名、演出家5名、劇作家3名を抱え、8名の常駐スタッフが組織を運営している。創立から6年間でレパートリーは30作品に達し、金土日の週末に日替わりで上演が行なわれる。全席指定だが、前売りチケットは早々と売り切れ、毎回、通路に補助席が追加されるほどの盛況ぶりである。ちなみに、入場料は、映画チケット料金のほぼ2倍にあたる700円に設定されている。

ホーチミンに本拠を置く民間劇団のなかには、日本の劇団との共同創作を切望しているディレクターも多い。次なる交流の関係をどう構築していくかが、わたしの新しい課題だと思っている。



フラットサイゴンの上演ポスター

(表 2) ホーチミンで人気のある民間劇団

	ホーチミンの民営団体	創立	拠点劇場と住所・備考	ロゴマーク
1	Sài Gòn Phẳng フラット・サイゴン	2009	<b>Nhà Hát Thế Giới Trẻ</b> (「若い世代」劇場) 125 Công Quỳnh, Quận 1, TP.HCM ※ホーチミン映画演劇大学内にある 285 席の劇場	
2	IDECAF タイ・ズオン劇団	2000	<b>Sân Khấu Kịch Idecaf</b> (IDECAF 劇場) 28, Lê Thánh Tôn, Quận 1, TP.HCM <b>7 Trần Cao Vân</b> (チャン・カオ・バン 7 番劇場)	
3	Hoàng Thái Thanh ホアン・タイ・タイン	2010	<b>Sân Khấu Kịch Hoàng Thái Thanh</b> 139 Bắc Hải, Phường 14, Quận 10, TP.HCM	
4	Hồng Vân ホン・ヴァン劇団	2006	<b>Sân khấu kịch Super Bowl</b> (「スーパーボール」劇場) 43A Trường Sơn, Q.Tân Bình, TP.HCM	
5	Hồng Hạc ホン・ハック劇団	2015	<b>Sân khấu kịch Hồng Hạc</b> (フラミンゴ劇場、162 席) 155 bis Nam Kỳ Khởi Nghĩa, Quận 3, TP.HCM	
6	Trống Đồng チョン・ドン劇団	1989	<b>Sân Khấu Trống Đồng</b> (「銅鼓」劇場) 12B Cách Mạng Tháng 8, Quận 1, TP. HCM.	

#### ④ ベトナム独自の伝統演劇…………チェオ、トゥオン、カイ・ルオン、水上人形劇

ベトナムの伝統演劇は、いずれも音楽と舞踊の要素を取り入れた歌舞劇であり、人々の暮らしに深く結びついている。形態は発祥の地域によって異なるが、大きくは以下の4つに分けられる。

- 1) 北部の民衆歌舞劇「チェオ」
- 2) 中部の宮廷文化と密接につながる「トゥオン」
- 3) 南部メコンデルタの民謡などが歌われる「カイ・ルオン」
- 4) 紅河デルタで誕生した「ムアズイヌオック」と呼ばれる水上人形劇

##### 1) チェオ Chèo

「チェオ」は中国の影響下が強かった北部の農村で、農民自身による娯楽の位置を占めてきた。踊りと音楽が滑稽な昔話と一体化したものである。筋立ては明瞭で、人の生きる術や善行が語られる。チェオには決まった型があり、舞台の造りにも見ることができる。かつては2枚のござの上で演じられ、観客は三方から取り囲むようにして見物していた。しかし20世紀初頭に都市部の専用劇場に持ち込まれ、専用劇団による公演が一般的になっている。



ニンビンチェオ劇団

現在ベトナム全土には16のチェオ劇団が存在し、地方の田舎ではお祭りなどでも上演されている。

## 2) トゥオン Tuồng

「トゥオン」は13世紀に伝わった中国の狂言が起源とされる。もともと北部が発祥の地だが、19世紀のグエン朝時代に中部フエに伝えられ、宮廷芸術として黄金時代を築いている。

中国の説話や史実、宮廷内の権力闘争や戦国武将を扱った歴史物が多い。ダナンの人たちはトゥオンのことを「ハット・ボ」と呼ぶ。

ダナン市内には専用のトゥオン劇場があるが、ここで上演される機会は少ない。

わたしがダナン滞在中に観たトゥオンは、野外で行なわれていた。毎週日曜日になると川沿いで夜市が行われ、その一角に野外ステージが設営される。日が沈むと、さまざまな色で隈取りをし、鮮やかな衣装を身にまとった役者たちが登場し、寸劇や民族音楽などを披露する。入場料はなく、観客は子ども連れの親子が目立つ。トゥオンに限ったことではないが、現況として伝統演劇は、ベトナムの若者層から敬遠され、観客が激減しているのが実状である。外国人観光客を取り込もうとした上演も行なわれているが、ベトナムの伝統演劇は存続という大きな課題を抱えている。



## 3) カイ・ルオン Cải Lương

「カイ・ルオン」を翻訳すれば、「改良劇」あるいは「改革された劇場」という意味である。

ホーチミン市では、中心地にある市営劇場で月に一回上演される程度で、客層は中年世代の年配者が大半を占める。残念ながら客席のなかに若者の姿をみつけるのは難しい。「チェオ」や「トゥオン」のように、政府が保存に力を入れることもなく、また観光化して上手く生き延び



ている「水上人形劇」のような確固たる伝統も持っていない。「カイ・ルオン」の歴史は浅いのである。

フランスの植民地だった1920年代に、フランスの喜劇に影響されて南部で誕生したといわれる。

音楽が重要な位置を占めるが、打楽器を使うことはなく、ベトナム独自の弦楽器（月琴）とギターを使って、南西部の「ヴオンコー」と呼ばれる伝統歌を粛々と奏でる。メコンデルタに住む友人いわく、南部方言で歌うと、とても味わい深いものになるそうである。

舞台上では、濃い化粧に派手な衣装を着飾った演者たちが、演奏に合わせてセリフを歌いあげながら踊る。剣術のシーンもあるが、迫力はない。劇の形態からすると日本で言うところの大衆音楽劇である。誕生して100年も経っていないにもかかわらず、演目は豊富である。

歴史や社会変化を題材にした作品やロマン小説を脚色したもの、恋愛や家族関係を描いたものなどが生み出され、発足当時はメコン河流域の多くの民衆に大人気だったという。

#### 4) 水上人形劇 Múa rối Thăng Long

人形劇は世界に数多く存在するが、水の  
上で演じられるのはベトナム唯一だろう。  
もともと北部の紅河デルタ地帯の村々で  
行われてきた芸能で、およそ 1000 年の歴  
史を持つといわれている。

地方の民話や伝説や神話などをモチー  
フとし、農作物の収穫を祝う祭りや村の行  
事に演じられていた。11～15 世紀頃には  
宮廷の娯楽としても定着し、中部のフエや  
ダナンなどにも幾つかの劇団が存在する。  
一般に野外の沼やため池などが会場とな  
り、舞台は正方形に仕切られている。背面

にはのれんが吊るされ、舞台裏では操者が腰まで水に浸かり、歌と楽器の演奏に合わせて人形を操る。



ハノイ民族博物館内の野外水上人形劇



ハノイ、タクロン水上人形劇

音楽は紅河デルタ地方の伝統的な楽曲である。肝心の人形はイチジクの木で作られ、長い竿の先に取り付けられて、糸によって首や腕を動かす仕掛けになっている。

水の都ともいわれるハノイには水上人形劇専用の公営劇場が 2 つある。

そのひとつ、「タクロン水上人形劇場」を取  
材した。劇場前の道路には大型バスが駐車し、  
入り口付近は外国人観光客でごった返してい  
た。ロビーには英語、仏語、日本語など数か国  
語のパンフレットが用意され、400 以上の演目  
から選ばれた 14 演目が紹介されている。打楽  
器を中心にした生演奏の音楽に乗って、田植え  
や魚釣りといった農村の日常風景が、優雅に、  
かつコミカルに演じられる。バラエティに富んだ場面が  
ユニットとして構成されているが、物語的な一貫性はない。上演時間は 50 分。

人形の作り方や操作技術は村々で世襲的に継承され、習得には 5 年の月日を要するものもあるという。昔は、人形遣いになれるのは男性だけで、人形の仕掛けの秘密は厳重に管理されていたという。なぜなら、女性は他の村に嫁ぎ、そこで仕掛けがばれる可能性があるからだ。しかし現在では女性の操者も増えて、舞台裏も公開することで「水上人形劇」の魅力を伝えようとしている。



ホイアンの水上人形劇（操者は女性が多い）

## 政府主導で開催される演劇祭、それを支える芸術団体の取り組み

ベトナムには、政府主導で開催されるフェスティバルが数多く存在する。

なかでも第3回ベトナム国際実験演劇祭は、日本の芸術団体が初参加し、素晴らしい結果を残した。

ベトナムに来たばかりの2015年暮れ、わたしは演劇祭を主催するベトナム舞台芸術家協会の会合に呼ばれ、実行委員長から日本の団体の参加を打診されたのである。

演劇祭の運営は、わたしの受入機関である国立劇場の館長や人民芸術家の称号を持つ演劇人らで組織され、審査員には、偶然にも知人のシンガポールの演出家 Chua Soo Poog が名前を連ねていた。

この演劇祭は3年毎に開催され、2016年が3回目を迎える。

演劇祭の概要には、「新たな形式を探りつつ、観客の欲求を満たし、舞台芸術界全体の発展を目指す」という趣旨が記載されていただけで、これといったテーマはなく、実験劇についての具体的な説明もなかった。正直なところ、ピンボケした写真を眺めているようで、輪郭がつかめなかったが、海外からの公演が少ないベトナムにおいては興味をそそられた。

グロトフスキの「実験演劇論」どころか、前衛演劇や不条理演劇さえ無縁の国である。そんな演劇状況のなかで、とくに若い世代に影響を与え、若者の考え方や想像力を発展させ、芸術における個人の自由な表現が育つなら、ベトナムの現代演劇は大きく変わるだろうと考えた。

海外からはパナマ、ギリシャ、フランス、ドイツ、フィリピン、中国、日本の7カ国が参加し、ベトナムドラマ劇場、ベトナム青年劇場、水上人形劇団、軍隊ドラマ劇団など内外あわせて15団体がハノイ市内の各劇場で競演した。



わたしが推薦した壁なき演劇センター主催の作品「かもめ」の一行は、国際交流基金の助成を受けてやってきた。そしてベトナムドラマ劇場の協力を得て2日間上演した。公演当日は、劇場に多くの観客が押し寄せ、通路まで立ち見客で溢れるほどだった。

プロジェクターによる字幕のトラブルはあったが、観客は息をのんで舞台に集中し、終演後には盛大な拍手が沸き起こった。感動と安堵が交錯する瞬間だった。

演劇祭のフィナーレを飾るクロージングセレモニーでは、華やかな民族舞踊と伝統音楽に続いて、審査員による各賞の発表と授賞式が執り行われた。

最初に発表された俳優個人部門では、いきなり日本の俳優2人の名前が告げられ、壇上で渡された賞状をみて銀メダルを受賞したことがわかった。続いて最高俳優賞にあたる金メダルは、これまた「かもめ」で主演した俳優3人、さらに優秀演出家賞も日本人が選ばれ、「かもめ」の舞台が高い評価を受けたことを実感した。最後に、参加団体の誰もが熱望していた栄誉ある最優秀作品賞は、「壁なき演劇センター」の「かもめ」がコールされた。15団体の最上位に輝いたのである。

手前味噌で恐縮だが、確かに「かもめ」の舞台は実験劇にふさわしい試みがなされ、ベトナムの観客を魅了し、日本現代演劇のレベルの高さをベトナムに知らしめた。そして、ベトナムと日本の演劇の距離がぐっと縮まり、日越共同創作の可能性が見えてきた。

## 2. フェローシップ期間中の渡航・移動に関する活動記録

日程	渡航・移動	活動内容
2015.12/11	東京→ハノイ	ハノイ滞在
2016.02/04	ハノイ→ナムディン省	ナンディン省の旧正月テットを視察
02/05	ナムディン省→ハノイ	
03/13	ハノイ→ホーチミン	中南部（ニャチャン、ダラット）における生活文化と少数民族による伝統舞踊の取材
03/18	ホーチミン→ニャチャン	
03/20	ニャチャン→ダラット	
03/23	ダラット→ハノイ	
04/09	ハノイ→ニンビン	ニンビン・チェオ劇場の訪問。館長 Nguyễn Quang と今後の共同作業の可能性について会談
04/10	ニンビン→ハノイ	
04/11	ハノイ→ダナン	ダナン滞在
04/29	ダナン→フエ	第9回国際舞台芸術フエ・フェスティバル取材
05/04	フエ→ダナン	
05/20	ダナン→ホイアン	ホイアンの野外水上人形劇団の取材
05/22	ホイアン→ダナン	
06/03	ダナン→ホーチミン	ホーチミン滞在
06/08	ホーチミン→チャウドック	カンボジアとの国境に接したメコンデルタのチャウドックを訪問。少数民族チャム族の村を取材
06/10	チャウドック→ホーチミン	
09/04	ホーチミン→カントー	メコンデルタ最大の交易都市カントーの生活文化を視察
09/06	カントー→ホーチミン	
09/30	ホーチミン→ニンビン省	ニンビン省の中学、高等学校における教育現場の視察ならびに一般家庭訪問取材
10/02	ニンビン省→ハノイ	
11/26	ハノイ→ホーチミン	国際交流基金ベトナム日本文化センターの文化講座「表現で学ぶ日本語」のワークショップ
11/29	ホーチミン→ハノイ	
12/02	ハノイ→ナンディン省	ナンディン・チェオ劇団訪問。チェオの実状について館長 Diệu Hằng と会談
12/04	ナンディン省→ハノイ	
12/10	ハノイ→東京	



ナンディン・チェオ劇場



国際舞台芸術フエ・フェスティバル



ニンビン省の中学教育現場

### 3. フェローシップ活動を終えて

1年がかりで見て回ったベトナムは、わたしの子供時代（1960年代）の光景と現在が同居しているような社会だった。裕福な人もいれば、極端に貧しい人も入り混じっていた。ハノイやホーチミン市のような都会でも、メコンデルタのような田舎町でも、その格差を鮮明に目の当たりにした。社会主義という政治体制ゆえに、生活するのは大変だと思っていたが、必死に生きている人々の姿と底抜けに明るい笑顔は、わたしに活力を与えてくれた。そんなベトナムにぐっと魅せられ、エアコンも、WiFiも、水道もない生活にためらいなく入っていった。未開発の地域では、演劇とは無縁の多くの人に出会った。直接の出会いである。かれらはわたしを快く自宅に招き、家族の一員のように迎えてくれた。

総じてベトナム人は、日本文化を尊敬し、日本人のわたしにとっても親切だった。

貧困な地域において、演劇がどういう社会的機能を果たしているのかを考察することは、家族とベトナム社会の関係を解明することにも繋がった。それは演劇の成立してきた状況とは全く別の状況を探り、人々の生活空間のなかで演劇を捉えなおす試みでもあった。

本フェローシップは、個人の活動だからこそ、また長期滞在だからこそできる「生きた交流」を可能にし、ベトナムの多様な生活文化を実体験させてくれた。ノマド的に行動するだけではなく、文化的背景を検証しつつ、創造につなげる視点を持ち続けたことで、将来の共同作業の大きな手掛かりを得たように思う。ほんとうに貴重な体験だった。

演劇は、時間と場所を共有することから始まる。お互いに関心を持ち合い、人と社会について考えることを可能にする優れた媒体だと思う。インターネットの発達により、世界の情報伝達の量と速度が急速に発達した現在においても、演劇の役割が縮減することはない。

4～5年前からベトナムの演劇界は、ようやく海外との文化・芸術交流に目を開き、新しい風を入れ始めている。現代演劇に限って言えば、わたしの受入機関である「ベトナム青年劇場」と「ベトナムドラマ劇場」は、日本演劇に強い関心を寄せている。伝統という従来の孤立した演劇状況から脱して、「舞台芸術の改革」を目指している。

わたしは今回の滞りで、「ベトナム文化スポーツ観光省」をはじめ「ベトナム舞台芸術家協会」「国際演劇協会ベトナムセンター」「ハノイ／ホーチミン映画演劇大学」などと強固なネットワークを形成し、ベトナム国内の多くの舞台芸術関係者の知己を得た。

こうした交流基盤をもとに、1年後、3年後、5年後の着地点を見据えた持続的な協働作業の取り組みを進め、しっかりした方向性を提示していきたいと思う。2017年以降も引き続きベトナムに活動拠点を置き、インドシナ半島を視野に入れた「アジアの演劇運動」を展開する計画である。

